

アーティストが考える「都市」とは？

都市のヴィジョン

— Obayashi Foundation Research Program

Press Release | 2023.3.20

《都市のヴィジョン— Obayashi Foundation Research Program》

第4回助成対象者は、イム・ミヌクに決定



公益財団法人大林財団は、助成事業《都市のヴィジョン— Obayashi Foundation Research Program》の第4回助成対象者を、韓国出身のアーティスト、イム・ミヌクに決定いたしました。

会田誠、シアスター・ゲイツ、エキソニモに続き、2023年度を当助成事業の活動期間として調査・研究に取り組んでいただくことになっております。内容の詳細については、決定次第あらためてお知らせいたします。

《都市のヴィジョン— Obayashi Foundation Research Program》について

アーティストが「都市」をテーマに研究・考察する活動を支援する目的で、2年ごとに実施される大林財団による制作助成事業です。2017年度にスタートし、今回で4回目を迎えました。

この助成事業は、豊かで自由な発想を持ち、さらに都市のあり方に強い興味を持つ国内外のアーティストを対象としており、5人の選考委員の推薦に基づいて決定されます。助成対象者には、従来の都市計画とは異なる独自の視点から、都市におけるさまざまな問題の研究・考察をし、住んでみたい都市や、新しい、あるいは理想の都市のあり方を提案・提言していただきます。

<https://www.obayashifoundation.org/urbanvision/>

第4回 助成対象者について

イム・ミンク

1968年生まれ。アーティスト。執筆、音楽、映像、インスタレーション、パフォーマンスなど、さまざまな表現手段を取り入れ、思考の幅を拡張して、ジャンルやメディアの境界を超えた多様な作品を制作。彼女の創作活動は、歴史の喪失、断絶、抑圧されたトラウマを想起させる。言語活動、あるいは表現の政治学に基づいた彼女の作品は、そのパフォーマティブな彫刻的オブジェやインスタレーションにおいて、過去の出来事の単なる再現ではなく、構造から立ち現れる非人間的な視線の存在を想像させ、気づかせることで、経験、記憶、感情を呼び覚ます。



Portable keeper-Seal
2012
Buoy, metal, fan, fishing gut, thread, glue
200 x 50 cm (diameter)
© the artist



Portable Keeper-Sea
2020
HD single channel video, color, sound
5min.22sec.
Suwon Museum of Art specific Installation view
© the artist



Si tu me vois, je ne te vois pas (If you see me, I don't see you)
2019
Hot water canal, mixed media
Lyon Biennale installation view
Dimension variable
Photo by Blaise Adilon



Dudumulmul (頭頭物物) No. 32
2021
epoxy resin, urethane, plaster, agar, partially eaten waffle, piece of photograph, earphones, LED bulb, arm warmer, electrical wire, kangaroo skull,
27 x 134 x 40 cm
Photo by Sangtae Kim

｜ 《都市のヴィジョン— Obayashi Foundation Research Program》 について

この財団は、1998年9月に、「財団法人 大林都市研究振興財団」として設立されました。その名前が示すとおり、都市に暮らす人々に豊かな生活をもたらすような都市づくりを実現するために研究活動に従事されている方々への支援を通じてわが国の都市研究の発展を後押ししようと微力ながら努力してきました。2010年9月に内閣府から公益財団法人として認定していただき、2011年9月に現在の「公益財団法人 大林財団」の名称に変更しましたが、同じ基本理念を貫いて来ました。

日本は、戦後復興を経て高度経済成長を達成し、物質面ではかなり豊かになり、都市環境も効率的で利便性の高いものとなりました。しかし、豊かになったと言われる日本の都市も、そこで日常生活を営む人々の心も本当に豊かになったかと言えば、答えに窮するところです。戦後しばらく日本は戦争で焼きつくされた国土を復興させるのに必死でしたし、他に類を見ないほど自然災害の多い国であることを考えれば、まずは国民の生命を守る頑強なインフラの構築が長い間国の使命であったことは頷けます。

また一方で、世界を見ると、貧困にあえぐ地域が多数存在し、その人たちにとってはその地域のどのような施設も生きてゆくための手段でしかありません。さらに、これは世界中で言えることですが、都市への過剰な人口集中、自動車の普及や産業の集積などによる大気汚染、自然環境の喪失、温暖化ガスによる異常気象の発生などの諸問題が生じました。近年日本では、少子高齢化に伴い人口が減少する中で空き家の放置や孤独死といった社会問題も起きています。

そこで、人々に豊かな生活をもたらすような都市づくりというものを再考し、人との交わりという部分で都市を研究することに何らかの貢献ができないか。都市があり、人がいて、そこでの様々な関わり、例えば芸術、経済、環境、歴史など都市と人間に関係する幅広い分野での研究を支援しようと考えたわけです。

この助成事業では、都市工学や都市の専門家ではなく、豊かで自由な発想を持ち、さらに都市のあり方に強い興味を持つ国内外のアーティストにお願いし、都市における様々な問題を考察し、住んでみたい都市や新しい、あるいは、理想の都市のあり方を研究してもらうこととしました。

考えてみれば、都市というテーマを研究したり考察したりするアーティストを支援している組織というものはこれまでなかったと思います。それに応えるのが、この《都市のヴィジョン— Obayashi Foundation Research Program》という助成事業です。

公益財団法人 大林財団 理事長
大林剛郎

｜ 推薦選考委員

選考委員長

野村しのぶ 東京オペラシティアートギャラリー シニア・キュレーター

選考副委員長

保坂 健二郎 滋賀県立美術館 ディレクター（館長）

選考委員

飯田 志保子 キュレーター／**大坂 紘一郎** アサクサ 代表／**藪前 知子** 東京都美術館 学芸員

| 過去の採択者について



Courtesy Mizuma Art Gallery

第1回（2017年度）

会田誠

[展覧会]

「GROUND NO PLAN」

[アーカイブ]

https://www.obayashifoundation.org/urbanvision/event/2017_aidamakoto/



Photo: Rankin

第2回（2019年度）

Theaster Gates（シアスター・ゲイツ）

[プレゼンテーション]

「To Be A Maker: Finding Afro-Mingei 作り手になることーアフロ民藝を求めて」

[記録集]

『ECONOMIES OF MINGEI』

[アーカイブ]

https://www.obayashifoundation.org/urbanvision/profile/2019_theaster_gates.php#pager01



Photo: Niko

第3回（2021年度）

exonemo（エキソニモ）

[記録集]

『Infected Cities』

[アーカイブ]

https://www.obayashifoundation.org/urbanvision/profile/2021_exonemo.php

| お問い合わせ

[助成事業についてのお問い合わせ]

公益財団法人 大林財団

〒104-0045 東京都中央区築地1-12-22コンワビル13F

TEL：03-3546-7581 / FAX：03-3546-7582

E-mail：obf-zaidan@obayashi.co.jp

[取材・広報用画像についてのお問い合わせ]

TM PRESS（担当：望月章宏）

TEL：090-2445-3808

E-mail：mochizk@gmail.com